

乾田化は高品質米生産への第1歩！

令和8年3月 春作業指導会
佐渡農業普及指導センター
TEL 0259-63-3185

コシヒカリBLの 育苗作業の注意点

普及センター
生育速報
技術情報

Point. 春作業前に田んぼを乾かすメリットについて3点紹介しています。
今のうちにしっかり乾かして、スタートダッシュを決めましょう！

1. 作業性の向上

過湿状態の作業では、ぬかる場所でロータリー等の作業機が深く下がり、ほ場の深さが不均一になります。



機械の旋回で田面の一部が凹んでいる様子



大型機械でもぬからず作業でき、ロータリー等作業機の深さが安定するため、耕起・代かきの深さも安定します。

耕深の均一化



**生育の均一化
除草剤効果の安定**



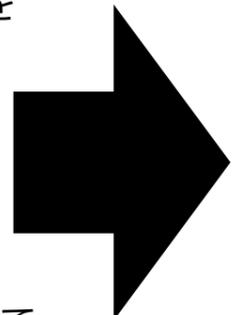
**良好な
初期生育の確保**



収量・品質の安定化

2. 土壌への酸素供給

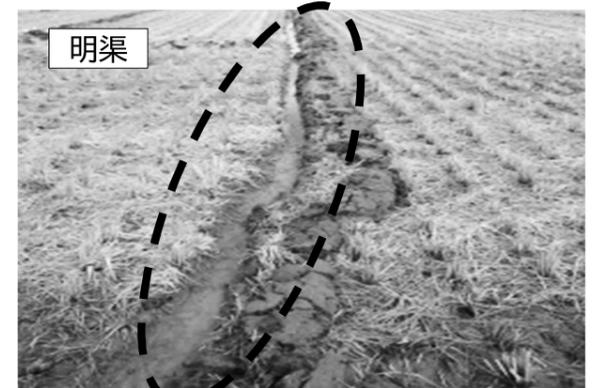
過湿状態の水田は還元状態となり、ワキの発生等による稲の生育不良を引き起こします。
そのため、乾かしてから耕起し、土壌に酸素を供給することが必要です。



3. 有機物の分解促進

入水前に土壌をしっかり乾かすことで、入水後の微生物による有機物分解が促進され、土壌中の窒素分が増加します。

★耕起前には**簡易明渠や暗渠開栓等での排水対策**を徹底しましょう！



明渠



乾田耕起

①塩水選 充実が良好な種子を選別します。

- 発芽障害が起こらないように、塩水選後は必ず水洗いをしましょう。
- 塩水選後に温湯消毒をする場合は、必ず十分に乾燥させてから行いましょう。

区分	比重	水10L当たりの食塩の量	水10L当たりの硫酸の量
うるち	1.13	1.9 kg	2.5 kg

②種子消毒 種子伝染性病害（ばか苗病、いもち病、ごま葉枯病、もみ枯細菌病、褐条病、苗立枯細菌病）の防除を目的として行います。

- 温湯消毒は、**乾籾を60℃の湯に10分間**漬けた後、直ちに冷水で冷やします。

..... ※温湯消毒済みの種子を使用する方はここから

- 温湯消毒のみでは防除効果が劣るため、**生物農薬との体系処理**を行いましょう。
- 新たな病原菌の感染を防ぐために、消毒後は**清潔な場所に保管**しましょう。

③浸種 種籾の吸水を促し、発芽の準備を完了させます。

- 必ず**清水（水道水、井戸水）**を用い、種籾1kgに対して3.5ℓの水量で行います。
- 低水温（10℃以下）での浸種では発芽が劣る**ため、温度管理を徹底しましょう。
※R7産コシヒカリBL種子は休眠が深いため、浸種・積算水温は()内の値をめやすに行いましょう！

浸種水温	積算水温
10~15℃ (12~15℃)	100℃ (120℃)

※()内は休眠が深い場合のめやす

④催芽 種籾の発芽タイミングを揃えることで、生育のバラつきを少なくします。

- 30℃で1~2日をめやすに行い、**8割以上がハト胸状態**になるよう催芽日数を調節しましょう。
- 催芽が不十分だと生育のバラつきにつながるため、**必ず発芽状態を確認してから**催芽を終了しましょう。



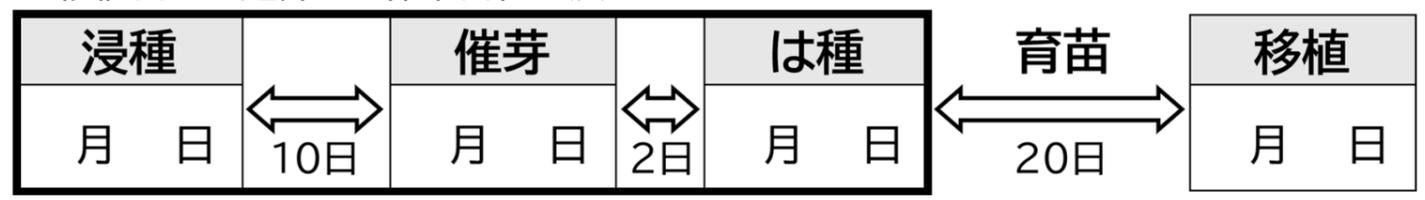
ハト胸状態

⑤は種 適正は種の徹底が健苗育成の第一歩です。

- 均一には種するために、種籾を握っても手に付かない程度に脱水または陰干しを行いましょう。

苗箱数	15~17箱/10a
乾籾	130~140g/箱
催芽籾	160~175g/箱
かん水量	1~1.2ℓ/箱

★移植日から逆算して作業日程を決めましょう！



本田作業の注意点

※ 肥料成分の損失を防ぐために、全層施肥を行う場合は施肥日をできるだけ田植え日に近づけましょう！

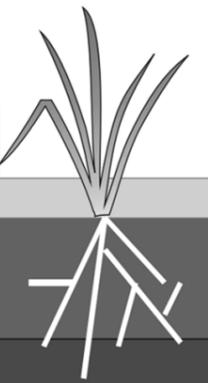
⑦ 耕起 耕深15cmを目標に**乾いた状態**(P1参照)で行いましょう。

○ 土壌の上部は外気の影響を受けて乾燥しやすいため、作土が浅いと根の分布が上部に集中し、干ばつや高温障害等に対する抵抗力が弱くなります。

温度変化大
乾燥しやすい

○ 耕深の目標は**15cm**ですが、一度に深くすると下層の不良土壌が多く混入するため、毎年少しずつ耕深を深める必要があります。

温度変化小
乾燥しにくい



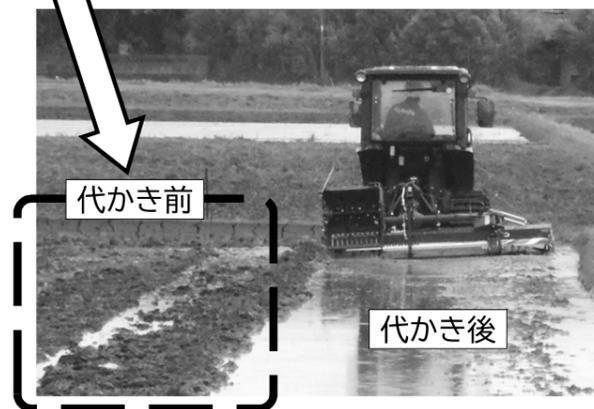
⑧ 代かき 田面を平らにし、生育ムラをなくします。

○ 水位は**田面が見えかくれする程度の最小限**とします。

○ 粘質な土壌においては、表層だけを膨軟にし下層に土塊が残る程度に代かきを行い土壌を**練り過ぎないように注意**しましょう。

○ 代かき水には肥料などが溶けているので水質汚染防止のため、代かき直後に**排水してはいけません**。

○ 雑草の繁茂や浮き苗を防止するために代かきは**移植の2~3日前**に行いましょう。



⑨ 移植 適切な植付け深さと水管理で初期生育を確保しましょう。

○ 植付け本数は**3~4本**とします。多いと過繁茂になり、細莖化による倒伏や品質低下を生じやすくなります。

○ 植付け深さは**2~3cm**とします。深植えは下位分けつの発生を抑制し、初期生育が劣る原因となります。

○ 補植は連続2~3株の欠株に1株を目安として行いましょう。

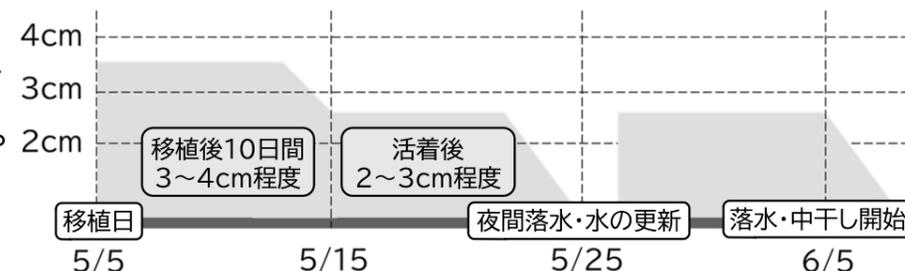
※ 補植はできるだけ早く行い、残った苗はいもち病の発生源となるため速やかに撤去しましょう。

移植中に確認して適正となるよう調整しましょう。

★ 移植後の水管理

○ 水温が高いほど発根、活着が早いので、日中は止水します。

※ 低温や強風時には4~5cmのやや深水で植え痛みを回避しましょう。



⑥ 出芽~硬化期の管理 温度管理の徹底でヤケ苗の発生を防止しましょう！

(1) 出芽期 【目標】出芽長 0.5~1.0 cm

ア 加温出芽の場合

- **30℃で2~3日**を基準とします。
- 緑化への移行の際に、15℃以上の急激な温度変化や強光に当たると白化苗を生じる原因となるので注意しましょう。

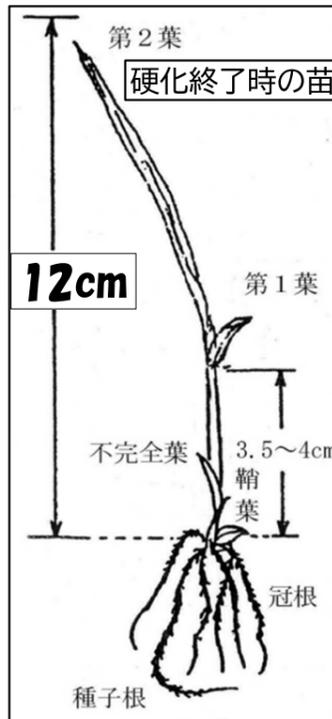
イ 無加温出芽の場合

- **日平均気温が10℃程度**に上昇した頃から、は種を行いましょう。
- ※ 出芽期間が低温・少照の場合は苗立枯病が発生しやすくなります！
- ※ 10℃未満の時期に出芽を行う場合は、二重被覆等で保温しましょう！
- 覆土に持ち上がりが見られたら、かん水を行いましょう。

	日中 (ヤケ苗注意)	夜間 (ムレ苗注意)	日数
(無加温) 出芽	30℃以下 ※30℃を超えないように換気	15℃以上	4~6
緑化	20~25℃	15~18℃	2~4
硬化	15~20℃	10℃以上	12~13

(2) 緑化期 【目標】第1葉鞘長 3.0 cm 葉齢 1.0~1.5葉

- **最低温度を10℃以上**に保ち、低温時には二重被覆で保温しましょう。
- **好天時には温度が急上昇するため、温度が上がる前に換気を行い、ヤケ苗・徒長苗の発生を防止**しましょう。
- かん水は午前中の早い時間帯に行いましょう。



(3) 硬化期 【目標】苗丈 12 cm 葉齢 2.0~2.2 葉

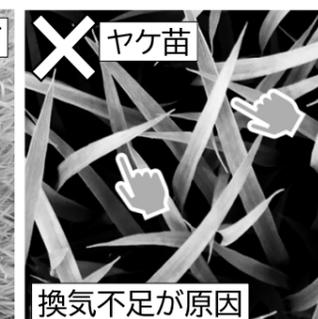
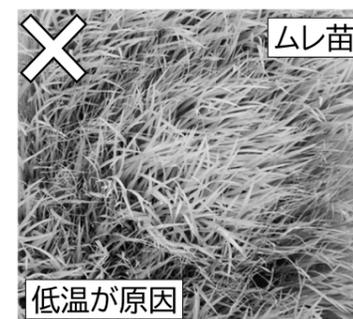
- **8℃以下の低温や20℃以上の高温**にならないように管理を行いましょう。
- 移植の1週間前頃から**外気に慣らすために**ハウスを開放しましょう。
- **2.0~2.2葉**で移植を行いましょう。

★ 苗の老化防止と活着向上のために移植前追肥を行いましょう！(※徒長苗は除く)

○ **移植前4~5日(1.8葉期)頃**に、窒素成分で約**1~2g/箱**を追肥する。

- 健苗
 - ・ 太く丸みのある茎
 - ・ 幅広で厚みがあり濃い色の葉
 - ・ 糊に養分がある

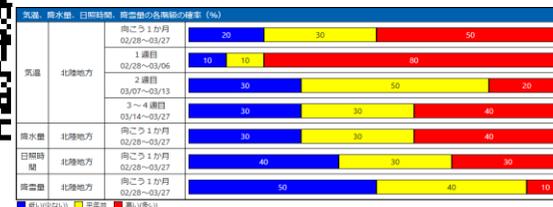
- × 徒長苗
 - ・ 細く、軟弱な茎
 - ・ 細長で厚みがなく薄い色の葉
 - ・ 糊に養分が少ない



1 田植日から、逆算して育苗計画を立てましょう！

20260313~JA 佐渡春作業指導会：文責 kaneda

◎実作業に入る前に「器具や装置の稼働状況を確認し、計画が遅れないようにしましょう。」



田植日に合わせた育苗計画作成用ガントチャート (JA 佐渡 HP)

毎月か月予報を貼り付けて置く
 暦は毎年更新してください

ワークシート「器具
 資材チェック表参照」
 気象庁のHPから最新の
 平年値を転記しておく

日平均	7.1	7.3	7.4	7.6	7.8	7.9	8.1	8.3	8.5	8.7	8.9	9.1	9.3	9.5	9.7	9.9	10.1	10.3	10.5	10.6	10.8	11	11.2	11.3	11.5	11.7	11.8	12.0	12.2	12.4	12.5	12.7	12.9	13.1	13.3	13.5	13.7	
日最高	10.7	10.9	11	11.2	11.3	11.5	11.7	11.9	12.1	12.3	12.5	12.7	12.9	13.1	13.3	13.5	13.7	13.9	14.1	14.3	14.5	14.6	14.8	15	15.2	15.3	15.5	15.7	15.8	16	16.2	16.4	16.6	16.8	17	17.2	17.4	17.6
日最低	3.1	3.2	3.3	3.5	3.6	3.8	4.0	4.1	4.3	4.5	4.7	4.9	5.1	5.3	5.5	5.7	5.9	6.1	6.3	6.5	6.7	6.9	7.1	7.2	7.4	7.6	7.8	8.0	8.2	8.3	8.5	8.7	8.9	9.1	9.3	9.5	9.7	9.9
月/日	3/25	3/26	3/27	3/28	3/29	3/30	3/31	4/1	4/2	4/3	4/4	4/5	4/6	4/7	4/8	4/9	4/10	4/11	4/12	4/13	4/14	4/15	4/16	4/17	4/18	4/19	4/20	4/21	4/22	4/23	4/24	4/25	4/26	4/27	4/28	4/29	4/30	5/1
曜日	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
佐渡米								塩水選	浸種	2	3	4	5	6	7	8	9	催芽	脱水	播種	無加温;平年~温が め4日	被覆 取	緑化	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
作業	①一か月予報確認(毎週木曜14:30)								初日水温12℃								28℃								干す													
	②育苗道具確認(鳩胸催芽器・出芽器等のサマ稼働状況,ハウス回り防風・破れ・除草・均平)								急ぎなら								遅霜注意								30℃, 鳩胸確認以上は×													
留意点	③資材確認(被覆資材・料理温度計)								12℃ 水替 12℃ 12℃ 水替 12℃以上保つ																													

2 根張りが悪い、活着が遅れる、収量がなかなか取れない...場合は「イナズマス」を試してみてください！

イナズマS の使い方	施用 時期	施用量 g/箱	注意 事項
推奨	移植 直前	125 ~250g	5kg/袋で40 ~20箱可能
播き過ぎ 注意	移植10日 前頃	100g まで!	散布位置の重 なりに注意! 施用後は十分 灌水



イナズマS箱施用区 無処理

移植後約40日後の株 (調査日: 6/9)

- 移植後約 35~40 日後頃の初期生育が向上!
- 良質茎の早期確保で収量向上に貢献!

移植後約 35 日後の生育状況 (調査日: 6/15)



精玄米収量 (1.85φ篩上・水分 15%換算 kg)



イナズマ S と発芽粉を置床した丸シャーレの歯発根状

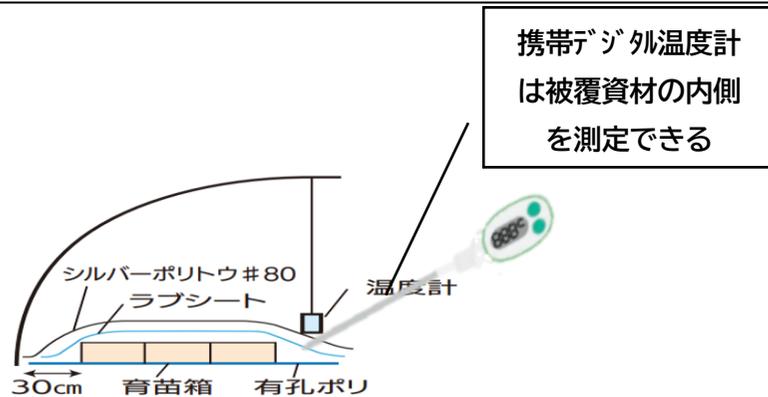


JA 調査では、イナズマsは、硫黄補充の肥料ですが、根から吸収されることによって側根が増える事がわかって来ました。近年話題のバ イオスティミュラ ン資材のように、「イナズマS」の成分が刺激となって発根が促進されるようです。

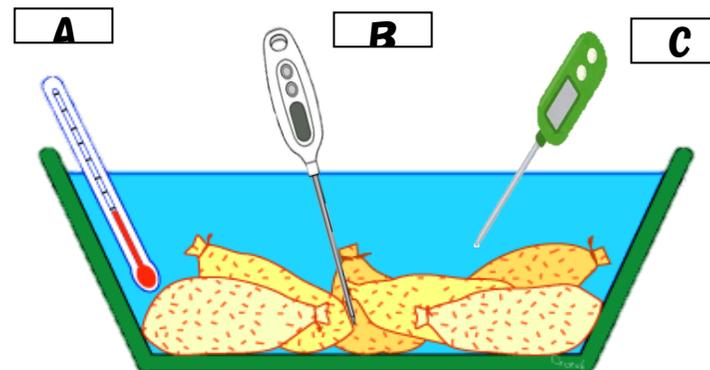
移植後の硫黄欠には「畑のカルシウム」20kg/袋×2~3袋/10a基肥時または追肥時で散布ください。

3 JA では、携帯料理用デジタル温度計を販売中！

水温が均一になるように正しく正確に測りましょう！



携帯デジタル温度計は被覆資材の内側を測定できる



A:水温を測っているが、目線に持ってきたときは気温を測っている
 B:種粉袋の中央の温度を測定
 C:水温を測定
 ★ホールド機能を使えば、計った部位の温度を目の前で確認できる

